

省資源・資源循環

オカムラグループは、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の考え方にに基づき、製品の企画・設計から販売、メンテナンス、リユース・リサイクル、適正処理に至るまでの製品のライフサイクルの中で、限りある資源をより長く、有効に使用し、廃棄物の発生を最小化するものづくりを目指しています。生産プロセスでは、リサイクル素材や廃木材・未利用材などの使用、樹脂廃材や水の再利用等に取り組んでいます。また、生産事業所や物流センターにおけるゼロエミッション*の取り組み、お客さまが不要になった使用済み製品のリユース・リサイクルの推進により、アウトプットの削減に努めています。（データ集 ▶P.154）

* ゼロエミッション：工場や物流センターから排出される産業廃棄物の最終処分量をゼロにすること（オカムラグループにおけるゼロエミッションの定義による）

水資源に関する取り組み

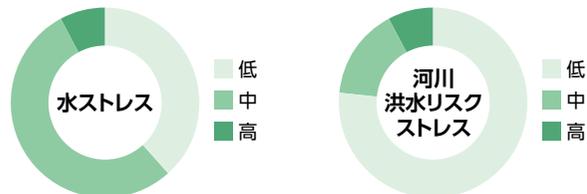
気候変動や人口増加などにより地球規模で課題となっている水資源問題の重要性を認識し、事業活動における水資源の使用削減や有効利用に取り組んでいます。

水の使用量については、原単位使用量低減の目標を設定して削減に取り組んでおり、2023年度は原単位前年度比5.8%減少しました。

オカムラグループの製造拠点において、水リスクの把握を行いました。その結果、中国の製造拠点1カ所で、水ストレスと河川洪水リスクが高いことを把握しました（2022年度）。

水リスクに関するツールや自治体が作成するハザードマップを活用するとともに、過去の経験的な要素も加え総合的に判断

WRIによるAqueductより オカムラグループ（国内12工場、中国1工場）



して、水リスクに関する実態の把握を継続的に実施していきます。なお、2023年度の水に関する環境法令違反や事故、訴訟はありませんでした。

取水に関する取り組み

生産事業所では塗装工程などで多くの水を使用することから、循環節水システムの導入により水資源投入量の削減を図っています。また、富士事業所は富士山の広大な裾野に位置し、豊富な地下水を工業用水や生活水として有効利用しています。

排水に関する取り組み

排水に関しては、国や自治体が定める水質基準値を超えた排水が発生しないよう、自社敷地内の排水処理場の監視を行うなど管理を徹底しています。

産業廃棄物の排出状況

オカムラグループの事業活動に伴って排出される産業廃棄物には、生産事業所から排出される生産系産業廃棄物、オフィスなどの内装工事請負時に発生する施工系産業廃棄物、お客さまが不要になった使用済み製品の回収による配送系産業廃棄物があり、いずれも有価物を含んでいます。廃棄物の処理責任を確実に果たすため、廃棄物処理を委託している事業者に対して定期的に現地確認を実施し、適正に処理されていることを確認しています。

生産系産業廃棄物の排出量については目標を設定して削減に取り組んでおりますが、2023年度は原単位前年度比5.1%増加しました。

VOICE

アップサイクルで目指す資源循環



(当時) オフィス環境事業本部
デザイン推進部
田中 和司

特注造作家具を通じて「アップサイクル出来るものはないか?」と思索していたところ、PANECO®の記事を目にしました。最近ニュースで良く見聞きする「衣料廃棄物」。この問題にディスプレイ・デザインからアプローチし、廃棄衣料繊維を原料とするサステナブルな循環型・環境配慮型素材の繊維リサイクルボードがPANECOです。折しも、社内オフィスの改修工事計画の只中だったこともあり、PANECO®を開発した株式会社ワークスタジオさまのご協力を得て、追浜事業所で発生するクロス端材でオリジナルのPANECO®を造り特注造作家具に利用してみる事にしました。1カ月溜め置きしたクロス端材をPANECO®の製造工場へ発送し、1カ月後に納品されたものは、一つとして同じ柄や色味のない風合いが特徴的で、まさに「オリジナルリサイクルボード」でした。現在、特注造作家具の設計と並行して、オカムラの製品にも利用出来ないか関係部署と検討中です。これからは廃棄物の削減、資源循環につながる環境配慮を取り入れたモノづくりに挑戦していきたいと考えています。

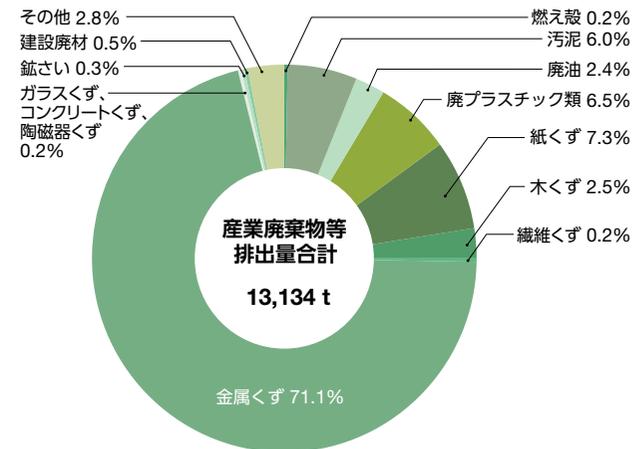


追浜事業所のシーティングのクロス端材



端材から資材へ生まれ変わった「オリジナルPANECO®」

製造拠点における産業廃棄物等排出量 種類別比率



物流段階における取り組み

物流センターでは、新規オフィス家具納品時に回収した使用済みデスクやイスなどのリサイクルを推進しています。リサイクル率向上の取り組みを継続的に進め、主要物流センターである横浜物流センターでは2008年度からゼロエミッションを達成しており、他の物流センターにおいても積極的に取り組むことにより2023年度は全ての物流センターでゼロエミッションを達成しています。

また、引き取り製品の中からまだ十分使える製品のリユースを行うことに加え、2021年度よりサーキュラーエコノミー（循環型経済）の考え方に基づくトライアルの取り組みとして、長期滞留品のリユースを進めています。

環境配慮型資材使用の推進

オカムラグループに各種資材を供給するオカムラサポートアンドサービスでは再生原料を100%使用した「エアキャップ」、FSC® 認証用紙を使用した「紙ファイル」などの品を揃えて、

製造・物流・施工段階での省資源の取り組み

製造・物流・施工の各段階において産業廃棄物排出量の削減、資源循環に向けた継続的な取り組みを進めており、それぞれの取り組み内容や成果について情報を共有することで、より効果的な活動につながっています。

製造段階における取り組み

生産事業所では、原材料の使用量削減と生産工程の効率化により、省資源・廃棄物削減に取り組んでいます。製造段階で発生する廃棄物のうち金属くずが約7割を占めており、投入さ

れる原材料に対する製品の生産量の割合を高める「歩留まりの向上」の徹底などを通じて原材料のムダを最小化し、廃棄物の削減につなげています。また、廃棄物排出時の分別を徹底し、中間処理業者を通じてリサイクルを進めています。こうした取り組みの結果、継続してオカムラの国内生産事業所においてゼロエミッションを達成しており、2023年度も産業廃棄物の最終処分量ゼロを実現しています。

環境負荷がより低く、資源循環に寄与する環境配慮型資材の推進に貢献しています。



紙ファイル

エアキャップ

施工段階における取り組み

施工段階では、金属とプラスチックの混合品が廃棄物として発生します。オフィスや店舗の改装需要が高まると施工段階での廃棄物も増加するため、分別を徹底し資源としてリサイクルすることにより排出量の削減に取り組んでいます。

製品のロングライフ化をサポート

お客さまに販売した製品のアフターメンテナンスにおいて、一貫したサポート体制を構築しています。オカムラサポートアンドサービスは、オフィス家具をはじめ、パブリックスペースにおける建材製品や防水板などの防災設備に至る幅広いオカムラ製品を対象に、保守・点検、修理・修繕、クリーニングなどを通じて、製品のロングライフ化をサポートしています。製品を長期にわたって使用していただくことは、お客さまの満足度の向上と同時に資源消費の抑制、廃棄物の削減などにつながり、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の構築に寄与しています。

クリーニング・リフォーム

製品を最適なコンディションで長期にわたり使用していただく、快適なオフィス環境を維持するためのサービスとして、クリーニングをお客さまに提案しています。間仕切、カーペット、オフィスシーティング、ロッカーなどほとんど全てのオフィス家具がクリーニング可能です。それぞれの素材に適した洗浄方法を用いることにより、汚れを効果的に落とし、素材本来の持ち味と美しさを取り戻すことができます。また、クリーニングでは対処できない汚れのひどいものや傷みの激しいものは、生地の変更などのリフォームを提案しています。



背当て部分の汚れもクリーニングを行うことで製品本来の明るさを取り戻します



破れてしまったソファは、張り替えを行うことで新品同様に生まれ変わります

使用済み製品の資源循環の推進

製品のライフサイクル全体における環境負荷を低減するために、ロングライフ化を進めるとともに、使用済み製品の資源循環に努めています。お客さまが使用を継続できる製品につい

ては、引き続き使用していただくことを提案しています。お客さまが使用されなくなった製品については、新しい製品の納入時に要望に応じて引き取りを行い、リユースや、中間処理業者を通じて適正な処理を行い、資源の有効活用と廃棄物の削減につなげています。

また、製品の輸送・搬入に使用した梱包材についても、素材ごとに分別し資源循環に努めています。

使用済み製品を引き取り選別しリユース・リサイクルへ

お客さまから引き取りを行った製品は、使用期間、機能や外観等の状況、修理の可能性などにより選別を行い、製品としてのリユース、素材ごとのリサイクルを進めています。

こうした使用済み製品のリユース・リサイクルの取り組みを通じて環境負荷低減につなげています。

引き取り製品・梱包材のリユース・リサイクル状況 (2023年度)

